

「生活モデル」主体に社会を考える

みんなで学ぶ人権

脱病理化する多様な性

島根県委託事業、みんなで学ぶ人権講演会「性同一性障害から性別不台へ」が9日、オンラインで行われた。GID(性同一性障害)学芸理事長で岡山大学教授(生殖医療)の中塚幹也氏が登壇し、性の多様性認識の国内外の現状や課題を提示した。主催は紫の風(上田地優代表)。

世界保健機関(WHO)の国際疾病分類の改訂(○)では今年1月発効版で、性同一性障害を

精神障害の分類から外し、「性の健康に関連する状態」という分類の

「性別不台(仮訳)へ」と診断名を変更。世界的に、身体的性別と性同一性が不一致であることは障害ではなく、多様な性の在り方の一つだという人権尊重の流れにある。



オンラインで行われた講演会の様子

中塚氏は、岡山大学病院のジェンダークリニックの産婦人科医として、心の性に対し身体の性に違和感を訴える患者に医療的なサポートをするほか、法的なことに関わる取り組みや社会への情報発信を行うなど、当事者が過ごしやすい環境づくりを力としている。

講演では、徐々に進んできた多様な性への

理解の表れや、日本における社会的な課題を紹介。性同一性障害の

脱病理化が進んだ今後は、生活の中でどうすれば生きやすくなるのかという「生活モデル」を主体に、社会を考え、ていく必要があると話した。

講演会の内容はオンラインで配信されており、YouTube上田地優チャンネルで、9月中旬までの期間限定で視聴することができる。